

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100142		
法人名	茨城ケアサービス 株式会社		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 ききょう庵	ユニット名	
所在地	〒310-0853 茨城県水戸市平須町2-72		
自己評価作成日	平成26年8月22日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<b>平成27年2月20日現在未登録</b>
-----------------	------------------------

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年10月23日	評価機関 決 済 日	平成27年1月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>多機能性を生かした利用者や家族のニーズに柔軟に対応しております。 利用者及び家族の希望や要望を伺い、個別ファイルに記入。加えて、本人とのコミュニケーションの中から情報収集をできるようつとめております。それを踏まえたうえでケアプラン、レクレーション等を検討しております。ドライブや外食会等利用者様のご希望やご意見を取り入れながら一月に一度以上外出する機会を提供しております。誕生会も一月に一度行い職員の出し物や手作りケーキでお祝いします。理美容は出張で来て頂ける業者と契約し、散髪する場所の提供を行っております。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>約1年前に前運営法人から事業を継承して発足した事業所である。 管理者はこれまでに培ってきた豊かな経験と知識を基に、小規模多機能型居宅介護サービス事業所のあるべき姿をしっかりと捉える中で、職員教育や事業所を担う後継者の育成に努めており、職員はその思いを受けとめて笑顔を大切にしながら利用者を支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合い理念を作成している。それをホワイトボードに掲示し、職員全員で意識しながらケアを行なっていく事を心がけている。	「住み慣れた地域で生き生きとした心豊かな生活の実現を支援」などのキーワードが入った事業所独自の理念を全職員で話し合っ て掲げているが、「家庭的な雰囲気」という観点での理念を掲げるまでに至っていない。 ホワイトボードに理念を掲示して職員で共有するとともに、利用者の個性を把握しながら一人ひとりに寄りそった介護に努めている。	「家庭的な雰囲気のもとでその人らしい生活の継続を支援」という地域密着型サービスの意義にそった理念を追加することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月4回、シルバー体操のボランティアを施設で実施している。月に1度、障害者支援施設による出張パン販売を実施している。以前利用されていたご家族の豆腐店に毎週豆腐を注文している。	「シルバーリハビリ体操」や助け合い活動をしている地域ボランティアが事業所を訪問し、利用者との交流をしている。 地域との付き合いを大切にするという観点から、利用者は近くの豆腐店やスーパーで積極的に買い物をしている。 利用者や職員が散歩をしながら顔馴染みになった地域住民が、季節の花々を事業所に届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在検討中ではあるが、今年度は実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域代表者に意見をうかがい、意見を取り入れている。利用者様ご本人、ご家族、ボランティアの方々への参加呼びかけが出来ていなかったので次回開催時に実施する予定になっている。	家族等の代表や市職員、民生委員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所のサービス利用状況や行事結果を報告しているが、自治会関係者や地域ボランティアなど、事業所のサポーターになっていただけそうなメンバーへの会議参加を呼びかけるまで に至っていない。 「事業所の広報紙を作成してはどうか」との意見を踏まえ、広報紙を発行している。	日本認知症グループホーム協会発刊の「認知症グループホームにおける運営推進会議ガイドブック」などを参考にしながら、幅広いメンバーの参加に向けた取り組みが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも施設から電話または出向いて市の担当者に意見をうかがい、より良い介護サービスに反映している。	管理者は市に直接出向いたり、電話をしたりする中で、事業所のサービス利用状況を市担当者に伝えるとともに、処遇改善加算制度利用に関する事務手続きなどを相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主に管理者が申し送りの際、または随時身体拘束になる事項について職員に説明している。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、きめ細かな見守りにより玄関施錠も含めて身体拘束をしないケアを実践している。 管理者は、「動かないで」など言葉による拘束が見受けられた場合には、その場で現場教育をするとともに、家族等に対して身体拘束禁止が法律で定まっていることについて説明しているが、定期的な研修を実施するまでには至っていない。	利用者の人権を守ることが基本であるという認識に立ち、身体拘束の内容や弊害について、定期的な研修の実施が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に管理者が申し送りの際、または随時虐待になる事項について職員に説明し、身体拘束を行わない介護を各職員が心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを用意し、随時施設内で研修を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書で丁寧な説明を行ない、ご利用者様、ご家族の同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様とコミュニケーションを取り、その他にもご家族への電話や自宅訪問にて報告を行ないながら意見、要望を聞いている。	職員は来訪時や送迎時のほか、連絡帳を通して利用者や家族等の意見や要望を聞くように努めるとともに、意見や要望を「苦情報告書」に記載することにより、全職員で共有して対応をしている。 事業所で遊べるパチンコ台が欲しいという要望を受け、6台の購入を決定している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回程全体会議を行なっている。	管理者は年2回の全体会議のほか、介護や調理など役割毎に分かれたグループでの職員の話し合いに参加する中で職員の意見を聞くとともに、勤務体制変更に関する職員の要望を聞いて柔軟に対応をしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりを目指している。また、常に職員の健康状態や意欲を確認し、必要に応じて管理者が職員との面談を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに合わせて、外部研修への参加、資格取得を促している。また、随時内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の病院、介護老人福祉施設や同業者とは常に情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階では、サービスの説明に先走ることなく、ニーズを知ろうとすることを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様だけではなく、ご家族と対面しニーズを知ろうとすることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて小規模多機能のサービスだけではなく、福祉用具貸与、購入、訪問看護等のサービス導入も視野に入れたプランを考えていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴、性格を把握し、洗濯物畳みやゴミ集め、お絞り、新聞畳み、テーブル拭き、施設内イベントの飾り作り、出し物等、可能な範囲で役割を持って頂き、職員と共に実施している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態などをご家族と共有し、話合い、共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長期泊まりの利用者様については馴染みの物を持参するよう話している。また面会については随時対応し馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	利用者の友達や昔の職場仲間が来訪した際には、ゆっくりとお話ができるようにお茶を出すなどの支援をしている。 利用者との日常的な関わりの中で把握した馴染みの人や場所を「介護記録」に記載するように努めているが、日常の記録に埋もれがちであり、馴染みの人や場所を明確に把握するまでには至っていない。	利用者がその人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することが重要であることを再認識し、把握した結果をサインペンで強調するなど、全職員で共有する工夫が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様一人ひとりに声掛けをしており、利用者様の同士の関係を把握している。利用日や席の配置を工夫し、行事、レク等で利用者同士が交流を持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、相談等に随時対応している。また、入院や他施設へ入所された利用者様への面会も実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に把握し、反映している。できるだけご利用者様本人の思いを聞き出し、支援記録に記入しておくようにしている。	職員は、利用者との日常的な関わりの中で、把握した利用者一人ひとりの思いや意向などを「介護記録」に記載するように努めているが、日常記録に埋もれがちであり思いや意向を明確に把握するまでには至っていない。 把握困難な利用者の中には、家族等や医療ソーシャルワーカーから聞き取った情報を基に、思いや意向を推測している。	利用者や家族等の思いや意向の把握が、ケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映していく取り組みが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの他に、本人や家族とのコミュニケーションの中から情報収集できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族、スタッフの1ヶ月ごとのモニタリングにより現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意見を基に介護スタッフの意見を取り入れながら作成している。	介護支援専門員が家族等の意向や医療関係者の意見を踏まえて作成した介護計画案について、介護職員の意見を聞きながら計画として確定をしている。 毎月モニタリングをするとともに、目標期間に応じて介護計画を見直しているが、その根拠となる評価結果を記録として残すまでには至っていない。 入退院など利用者の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	作成→実行→評価→見直しというケアマネジメントの確立に向けて、利用者一人ひとりの介護計画の目標に対する評価結果を記録として残すことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の他に、職員での連絡ノートにも記入して情報を共有し、実践するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族からのニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員と協力し情報提供を合っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回協力病院の往診がある。休日、夜間でも対応が可能である。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を把握するとともに、地域ボランティアの協力を得ながら職員がかかりつけ医への受診に付き添っている。 事業所の看護職員が、利用者の病状についてかかりつけ医と連絡を取りながら把握に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常在している。協力病院、かかりつけ医、ご家族との連携を図り、健康管理をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護支援専門員、担当介護職員が面会を行ない、状況確認と医療機関より情報収集を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にターミナルケアには対応していない。容体が悪化した場合は本人、ご家族と話し合い協力病院に入院できるように勧めている。	「最期まで人としての尊厳を保ち、安らかな死を迎えられるよう職員一同支援します」などの言葉が入った「重度化や終末期に向けた方針」を作成しているが、事業所として「できることとできないこと」を明記した書類を作成するまでには至っていない。	事業所と家族等との意向がずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所として「できることとできないこと」を明記した指針を作成して、利用者や家族等の同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが外部、内部研修を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の消防署に来て頂き、総合訓練を行なっている。	消防署立ち合いのもとで、避難訓練を年1回実施しているが、夜間を想定した訓練を含む年2回の避難訓練を実施するまでには至っていない。 訓練の反省点を記した避難訓練記録を作成しているが、避難完了時間の記載がなく、避難限界時間を踏まえた課題を浮き彫りにするまでには至っていない。 災害時における地域との協力体制を構築するまでには至っていない。 災害に備えて食糧や飲料水、備品などの備蓄品リストを作成して管理をしている。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施する中で、避難限界時間内の避難完了に関する課題を把握し、解決に向けた確実な取り組みが望まれる。 運営推進会議などの機会を通して地域住民に対して協力依頼を呼びかけるなど、災害時における地域住民との協力体制の早期構築に向けた取り組みが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録等の取扱いは、外部者の目に触れない場所に保管するようにしている。また、職員はプライバシーを損ねるような対応をしないように心掛けている。	職員は排泄誘導の際には他の利用者に気づかれないように耳元で話しかけているほか、利用者の名前を「ちゃん付け」で呼ばないように努めている。 管理者は人格の尊重を損なうような職員の言葉遣いが見受けられた場合には、現場教育により注意を促している。 利用者の個人情報には人目に付かない事務室に置いた鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に合わせた声掛けを行なっている。また、本人の思いを尊重したケアを行なうように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本スケジュールはあるがその都度ご本人の希望を聞き、可能な限り自分のペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人やご家族とその季節毎に相談して衣類を用意して頂いている。定期的に理美容の出張を依頼し、カットの他カラーやパーマも行える。その他にもネイルケアも実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のアンケートを実施して、各利用者様の好みや食事形態を記入した食札を使用している。月に1～2回昼食やおやつ作りをする機会を設けている。後片付けは毎食、ADLに合わせそれぞれ可能な範囲で協力しながら行っている。	利用者や家族等に対して実施した食事アンケートを基に、利用者一人ひとりの好みや調理方法を把握し、栄養士や調理担当職員が献立を作成している。 利用者はそれぞれの能力に合わせて、調理やテーブル拭き、おしぼり配り、下膳など、職員と一緒に準備から後片付けまで携わっている。 月に1回から2回の「おやつ作り」のほか、誕生会や行事に合わせて「お楽しみメニュー」や「外食ツアー」などを取り入れている。 利用者と職員はテーブルを囲み同じ食事を摂る中で、団らんしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や咀嚼機能に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、食後の口腔ケアを徹底している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄記録を毎日記入し、排泄パターンを把握し、ご利用者さまに合わせた排泄方法を考え対応している。	オムツも身体拘束であるという観点に立ち、自宅でオムツをしている利用者に対しても、排泄記録に基づいて排泄誘導をすることにより、オムツをしないケアを実践している。 乳製品や繊維質の食事を増やすことにより、薬に頼らずに排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し、適度な運動を取り入れている。看護スタッフが中心となり、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後と対応している。入浴を嫌がる方には、シャワー浴や足浴への変更もし、清潔を保てるような介護を行なっている。	毎日午前及び午後の入浴を基本としているが、それ以外の時間帯でも希望があれば対応可能となっている。 大小二つの浴槽を設置した浴室からは庭の木々が見えるほか、明るく開放的な浴室となっており、菖蒲湯や入浴剤を使用してハードとソフトの両面から入浴が楽しみなものになるよう工夫をしている。 入浴を拒む利用者に対しては無理強いせず、シャワー浴や足浴に変更するほか、「さっぱりしよう」や「明日娘さんが来るから入浴しよう」などと声かけをしながら入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様に応じた休息時間を設けている。その際はベッドや布団など、利用者様に応じた対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を確認できるよう、薬の説明書をファイリングしている。また、投薬に変更があった場合は全スタッフが把握できるよう、伝達を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに基づき、一人ひとりに合わせて楽しみや生きがいを持てるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	ドライブや外食など、利用者様の 希望や意見を取り入れながら、月 に1回以上は皆様で外出できる機 会を設けている。また、歯科受診 や買い物など日常的な外出支援も 随時行っている。	天気の良い日には、利用者が毎日事業所 周辺を散歩ができるように支援をするとと もに、年間計画にそって地域ボランティア や家族等の協力を得ながら、初詣や海浜公 園、植物園、花見、紅葉狩りなどの行事を 毎月実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	買い物、外食の機会を設け、その 際は自分の財布から支払ができる ように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	ご家族やお馴染みの方からの電話 は、ご利用者様確認の上、取り次 いでいる。要望のある時は利用者 様本人が電話を掛けられるように 支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	共用空間は天井も高く、広くゆっ たりしている。高い窓のメンテナ ンスや掃除は、業者に依頼し清潔 を保っている。スペースには作品 を展示し、季節の花や小物を置い て季節感が出るように配慮してい る。	居間兼食堂は天井が高く、天窓を設けて 採光を取り入れるなど、広くゆったりとし ており、玄関やホールにはソファやテー ブルを配置して季節の花々や観葉植物、絵 画、利用者の習字作品を飾るなど、利用者 がゆったりとした雰囲気の中で居心地よく 過ごせるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを観たり、ご家族と団らんしたり、くつろいだりと、利用者様が思い思いに過ごしていただけるスペースを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや畳など本人の希望に応じて対応している。泊まりを利用されるご利用者様には新しく買いそろえたりせず、日頃使用しているものを持って来て頂くようにしている。	職員は家族等と相談しながら、利用者が泊まりの部屋に使い慣れたクッションや枕、寝具のほか、衣装ケースなどを持ち込めるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力に合わせて、できることは自力でできるように支援している。鏡や洗面台の高さは低めにし、利用しやすいようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護施設 ききょう庵

作成日 平成27年1月30日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「家庭的な雰囲気」という観点での理念が掲げられていない。	地域密着型サービスの意義にそった理念を追加する。	次回の施設の全体会議で地域密着型サービスの意義にそった理念を追加、作成する。	3ヶ月間
2	4	自治会関係者や地域ボランティアなどのメンバーへの会議参加を呼びかけられていない。	幅広いメンバーに参加をして頂けるように取り組む。	近隣の市民センター等に働きかける。ボランティアの会にも働きかける。	6ヶ月間
3	6	身体拘束、虐待の防止などの研修が定期的に行なえていない。	定期的に職員の研修を行えるようにする。	管理者が講師を担当し、内部研修を毎月実施していく。また、老施設、県社協の研修にも積極的に参加する。	6ヶ月間
4	20	利用者の馴染みの人や場所を明確に把握できていない。	職員全員が利用者一人一人の馴染みの人や場所を把握できるように努める。	蛍光ペンなどで把握した重要な記録を強調する。	3ヶ月間
5	23	利用者一人一人の思いや意向を明確に把握できていない。	職員全員が利用者一人一人の思いや意向を把握できるように努める。	アセスメント時に本人の生活歴、趣味、ライフスタイルを再チェック、周知していく。	3ヶ月間
6	26	毎月のモニタリングで評価結果を記録として残せていない。	モニタリングで評価結果を記録として残す。	モニタリングの評価結果を記録する欄を追加する。	1ヶ月間
7	33	ターミナルケアについて事業所としてできること、できないことを明記した書類を作成できていない。	ターミナルケアについてできること、できないことを明確に書類を作成する。	なるべく早く明確な書類を作成する。	3ヶ月間
8	35	夜間想定避難訓練を実施できていない。避難完了時間、避難限界時間の記載がない。	避難完了時間と避難限界時間を記載し、夜間想定避難訓練を実施する。	H26/12月に夜間想定避難訓練を実施した。今後も定期的実施していく。避難完了時間、避難限界時間を記載した。	済み

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。